

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	SPORTS LABO DAYS 小平PARK			
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和7年4月1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・感覚統合を土台とした運動療育という専門性の高いプログラムを発達の段階を鑑みながら提供していること。 ・療育の核が明確な為、そこを根幹に発達段階を見極めながら「自立」に向けて支援していること。	・活動を受動的に「させる」のではなく、自主的・能動的に本人からすすんで取り組めるような「内容」「声掛け」「経験・体験」を意識ながら対応している。	・感覚統合療法の共通認識を職員間ではかること。 ・提供するサービスのクオリティの追及や共通化。
2	・個別での対応となる為、集団に比べ手厚いサポートが可能である。 ・療育担当者が担当制ではないため様々な有資格者が多角的に関わることでお子様をチームとして支援していること。	・「なぜ」をきっかけに感覚面から原因に対してアプローチしていくことで、「どこでつまづいているのか」「どうしたらできるようになるのか」と土台から発達を促すことにつなげています。 ・支援開始前や終了後のミーティングを毎回行い、情報の共有化をはかっている。	・指導員一人一人の知識や技術の向上。
3	・行動学習を積み重ねることで適応行動を促していくこと。 ・令和6年度から集団療育を設け、幼稚園・保育園や小学校での集団への適応を促していること。	・話を聞く態勢づくりから介入し、「関り」「協調」「競争」「成功経験・体験」からコミュニケーション能力や社会性を育めるよう取り組んでいます。 ・集団活動（小集団）の中での課題に対して、指導員がケーススタディを行い、視覚化・俯瞰的視点から状況統を理解し適切な対応を促している。	・子ども自身が自身の発言や行動に気づきにつながるような工夫。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・担当制ではないため情報共有をきちんとしていないと変化に気づきにくい。 ・療育に際して一貫性に欠ける可能性がある。	・成長や課題に対して、指導員一人一人の感じ方受け取り方が異なる。	・毎回のミーティングや研修を通して、情報を共有することや知識や技術の向上、共通認識をはかる。
2	・預かる時間が短いため普段の園・学校生活や過程での課題を実際に触れる機会が少ない。 ・集団指導の経験が少ない。	・事業所の方針・体制的に起こりえてしまう。 ・比較的年齢の若い指導員が多いため。	・時間を長く設定して集団療育を行うように工夫（実施済み）。 ・経験を重ねる。
3			